

ここに
革新のドラマあり

1

Number 02

市場開拓で見た鑄造界の未来

くわな鑄物の新たな挑戦

日本有数の鑄物産地として名高い桑名。現在も市内では鑄物づくりが続けられています。機能性の高い日用品を世に生み出し、人々の暮らしを支えてきた歴史と新たな市場を見つめた挑戦が、未来の「くわな鑄物」につながっています。

暮らしを見つめる
ものづくりが出发点

今日乗ったエレベーターや、街で見かけたマンホール。料理を作るときに使うガスコンロの部品や、コーヒーを入れるコーヒーマル……。ここ桑名でつくられた鑄物が、私たちの暮らしを、そっと、でも力強く支えてくれていることをご存じでしょうか。

鉄などの金属素材を高温で溶解し、型に流し込むことで成形する「鑄造」。紀元前から用いられている歴史ある製造方法で、鑄造による金属製品全般が「鑄物」と呼ばれています。諸説ありますが、桑名では江戸時代から製造が始まり、明治に入ると鑄造業の型作りに欠かせない良質な砂が発見されたことも重なって、鑄物の大量生産がさかんになったといわれています。



4



5



2



3

①「くわな鋳物」の一部。上から時計回りに、ハードスタイルケトルベル(伊藤鉦鋳工所)、コーヒーミル(辻内鋳物鉄工(株))、すき焼鍋(桑原鋳工(株))、ごはん釜(桑原鋳工(株))、蚊やり器(株)マルデ鋳器) ②1959年の鋳物工場型込工 ③手工業的な作業から機械化され、省力化された1973年の鋳物工場 ④1667年に建てられた、春日神社前の青銅の鳥居 ⑤マンホール蓋の製造もさかん。さまざまな工場で作られています。

人々の暮らしを支えてきた歴史が、今の「くわな鋳物」をつくっています。



(取材協力) 左から順に、三重県鋳物工業協同組合 事務局長 湯口五郎さん、理事長 平野喜嗣さん、辻内鋳物鉄工(株) 社長 辻内倫夫さん、城田鋳工(株) 会長 城田芳樹さん

日本有数の鋳物産地のひとつとして名高い桑名ですが、他の産地とは少し異なるルーツを持っています。全国的に鋳物といえば、自動車部品や工作機械部品など、一部のパーツや土台などの製造が大半でした。一方桑名は、昭和30〜40年代の高度経済成長による物資の大量需要に伴い、鍋釜やステーキ皿、ミシンやアイロン、鋳物製ガスコンロなど、多くの日用品を手がけてきた経緯があります。中でもガスコンロは、全国シェアの90%以上を占めていた時代も

ありました。昭和後期には日用品需要は減少するも、その技術力の高さを活かした製品(マンホール蓋などの土木建築製品やファクトリーオートメーションの核となるモーターなどの一般電気機械、工業機械の部品など)の製造に移行し、現在に至っています。部品の中には、製品ごとに品質証明書が必要とされるものもありますが、海外製では通らない厳しい品質基準も、これまで培った技術力でクリアできる、まねのできない品質の高さが自慢です。



ケトルベルのように、
鋳物の得意分野を
発揮できる市場が、
きっとたくさんあると
信じています。



①機械ではなく手で型に流し込む手
込め造型」。1個からの小ロット・小
部品受注にも対応。②機械部品や
建築製品などを主に手がけていま
す。③昨年6月にはトレーニングに
使えるジム「HARD STYLE GYM」を
オープンし、ケトルベルの使用方
法をレクチャーしています。④「伊藤
鉦鋳工所」3代目社長 伊藤允一さん
⑤ケトルベルは、4kgから48kgま
での多彩なラインナップ。「MADE IN
KUWANAWA」が刻まれています。



「くわな鋳物」を広める 新たな商品開発に挑戦

ロングセラーであるコーヒーマ
ルやかき氷機が今もつくられてい
たり、中華料理店などで使われ
る業務用ガスコンロが今も得意
だったり。そんな歴史を持つこ
の地で「さらに桑名らしい鋳物
を」と、平成27年には地域が
一丸となって「くわな鋳物」と
してブランド化を図る動きが始
まり、新商品開発に踏み出す会
社も増えてきました。「伊藤鉦
鋳工所」もそのひとつ。昭和25
年の創業以来、三代に渡って鋳
物製造を続けてきた老舗工場で
す。廃業の覚悟をしていた先代
の反対を押しつけ、伊藤允一さ
んが跡を継いだのは6年前のこ
と。「鋳造業は斜陽産業と言わ
れていましたし、父の背中を見
て仕事の大変さも業界の厳しさ

も重々承知の上でした。でもだ
からこそ、生き残りを賭けて挑
戦してみたいという気持ちもあ
りました」と伊藤さん。「若者
が鋳物に触れる機会をつくりた
い」と、先代が断り続けていた
地元高校のインターシップも積
極的に受け入れるなど、生き残
りを賭けた小さなアプローチを
始めました。

転機となったのは、そのイン
ターシップ生との作業中に抱
いた違和感でした。製造してい
るのはほとんどが機械の部品で、
高校生に製品内容を説明したく
ても「この製品が世の中に対し
てどう関わり、どのように役に
立っているのか」がうまく伝わ
らなかつたのです。「オリジナル
製品を開発して、誰にでも胸を
張って鋳物の魅力を伝えられる
ようにならないければ、生き残っ
ていけない」と感じ、自社商品
の開発に乗り出しました。

鑄物の特長を生かした トレーニング器具を開発

鑄物の特長を生かした製品を模索していた伊藤さんは、「鑄物の「重さ」を喜んでくれる人に届けたい」と、フィットネス業界に目を向けました。そこで、ロシア生まれのトレーニング器具が注目されていることを知ります。ダンベルとは異なり、初心者や女性でも扱いやすく、筋肉や体幹を鍛えられる丸いやかんのような形の「ケトルベル」。国内には海外製しか出回っていないことにも目をつけました。最適な形を求めて何度も試作を重ねながら、自らもトレーニングを積み、インストラクターの資格を取得。晴

れて「日本初の国産ケトルベル」として発表したのです。「売れなくてもいいという覚悟でしたが、意外と注目度が高く驚きました。職人がつくる国産品という点も高く評価していただいています」。黒の電着塗装を施すことで、使うほどにつやが出て深みを増していく独特の鑄肌いはだは、日々触れ続けるトレーニング器具という点でも相性は抜群。伊藤さんの挑戦は新たな市場を開拓する改革を起こしたのです。「鑄物に触れてもらえる機会を増やしたい。地域として一丸となって、くわな鑄物としてのブランド価値をもっと高めていけたらうれしい」と伊藤さん。ケトルベルの「MADE IN KUWANA」の文字に、そんな熱い思いが刻まれています。

ケトルベルの 使いかた

ケトルベルは、トレーニング初心者でも腹筋や肩、背筋、体幹などを鍛えることができる、手軽なトレーニング器具です。お尻の引き締めにも効果的なので、女性にも人気!



1. 足を腰幅に広げて立ち、お尻を突き出すように腰と膝を曲げ、両手でケトルベルを持つ。



2. そのままケトルベルを両足の間から後ろへ振り、スイングする。



3. 腕の力を使わず、尻を軸に膝を伸ばして上体を起こすイメージで、ケトルベルをスイングして胸の高さまで上げる。



4. 2～3を繰り返す。

地域が一丸となり、くわな鑄物の価値を高めていきたい

この記事に関するお問い合わせは、
秘書広報課へ
(☎ 24-1492 FAX 24-1119)

有限会社 伊藤鉦鑄工所

住所/和泉247
TEL / 22-2265
ホームページ / <http://ito-gen.jp>

※トレーニングジムの営業時間についてはお問い合わせ

